

## 4 市民が考える緑と水

### (1) アンケート調査での市民の声

計画策定段階において、市民が福生市の緑と水をどのように考えているか把握するため、平成 24 年度に、市民意識アンケート調査を行いました。

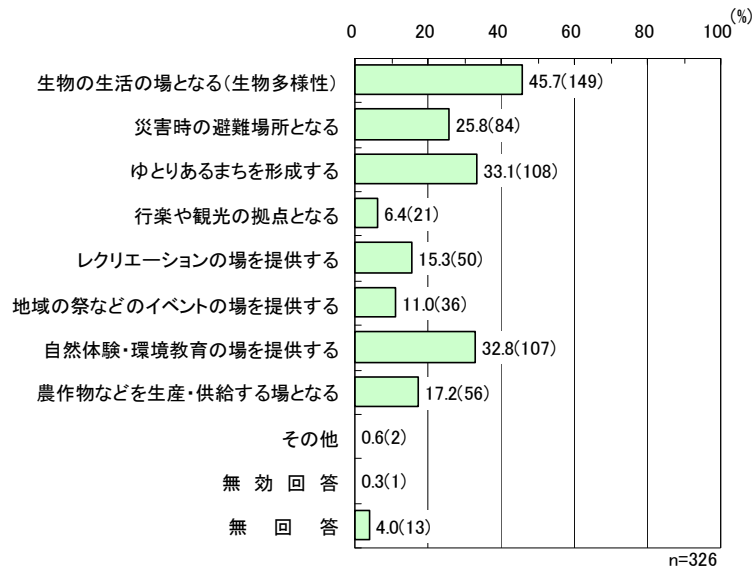
(調査概要は、資料編 P.98 参照)

#### 【市民意識アンケート調査の主な結果】

- ① 「日ごろ、あなたが接したり目にふれたりする緑には満足していますか？」の問いに、「(大いに/ある程度)満足している」と答えた人の割合は、前計画策定時(平成 10 年)に行った市民意識アンケートと比較して、緑への満足度が増加しました(55%から 67%に増加)。
- ② 「福生市の緑に関連する施設の数についてどう思いますか？」の問いに、「歩行者専用道路・サイクリング道路」については、「多い」や「普通」を上回り、37%の人が「少ない」と回答しました。
- ③ 「日々の生活の中で緑と水とどのようにふれあっていますか？[3 つ選択]」の問いに、「散歩」(87%)が最も多くあげられました。
- ④ 公園や樹林地、農地、河川など、緑と水のある場所に期待するものとして、「生物の生活の場となる」が最も多くあげられました(→P.27 ●1 参照)。
- ⑤ 「守りたい緑と水」には、福生市の特徴的な緑と水があげられている一方で、「増やしたい緑と水」には、道路沿いやまちなかなど、市街地の緑があげられました(→P.27 ●2 参照)。
- ⑥ 「公園を利用している」と回答した人への「公園を利用する利用はなんですか？[2 つ選択]」の問いに、「自宅から近いから」(71.3%)、「広々しているから」(41.9%)が多くあげられました。
- ⑦ 緑と水の取組みについては、これから参加してみたいと考えている人が多くいることが分かりました。特に、自宅への花苗の植栽や、市民農園の利用についての、ニーズが高いことが分かりました(→P.28 ●3 参照)。
- ⑧ 今まで参加したことがない人の中には、取組みが行われていることが知らなかったために、緑と水の取組みに参加できていない人が多くいることが分かりました(→P.28 ●4 参照)。
- ⑨ 「福生市内の緑と水の取組みにこれから参加してみたいものはありますか？」の問いに、「市民農園を利用する」と回答した人は、20 代~40 代の人が、50 代以上の人を上回りました(→P.28 ●3 の年齢別クロス)。
- ⑩ 「福生市の緑の量についてどう思いますか？」の問いに、自宅の周辺の緑の豊かさについて、「多い」と答えた割合が、一戸建に住む人の方が、集合住宅に住む人を上回りました。
- ⑪ 「あなたは、福生市内の緑と水の取組みに今まで参加したことがありますか？」の問いに、一戸建に住む人の方が、集合住宅に住む人の参加割合を上回りました(→P.28 ●3 の住宅形態別クロス)。

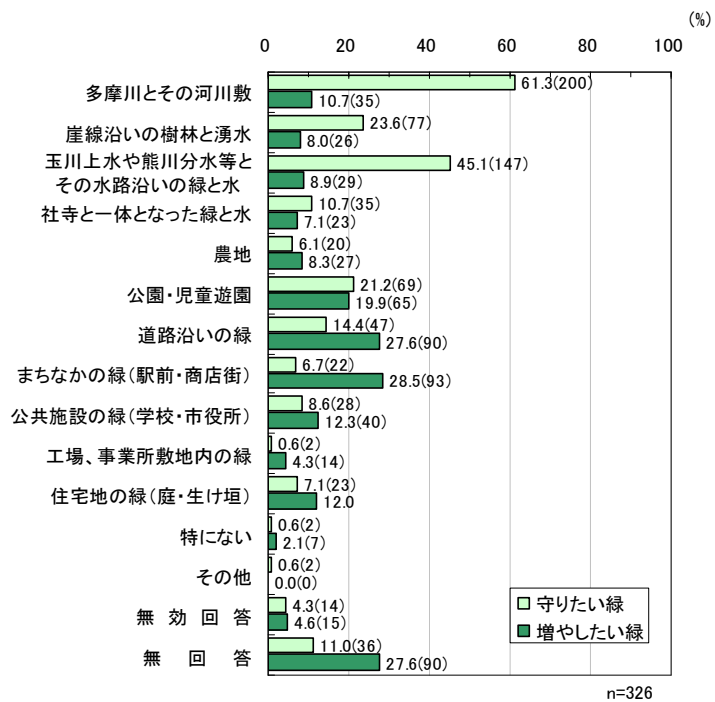
- 1 公園や樹林地、農地、河川など、緑と水のある場所に期待するものとして、「生物の生活の場となる」が最も多くあげられました。

問 公園や樹林地、農地、河川などに期待するものはなんですか？ [2つ選択]



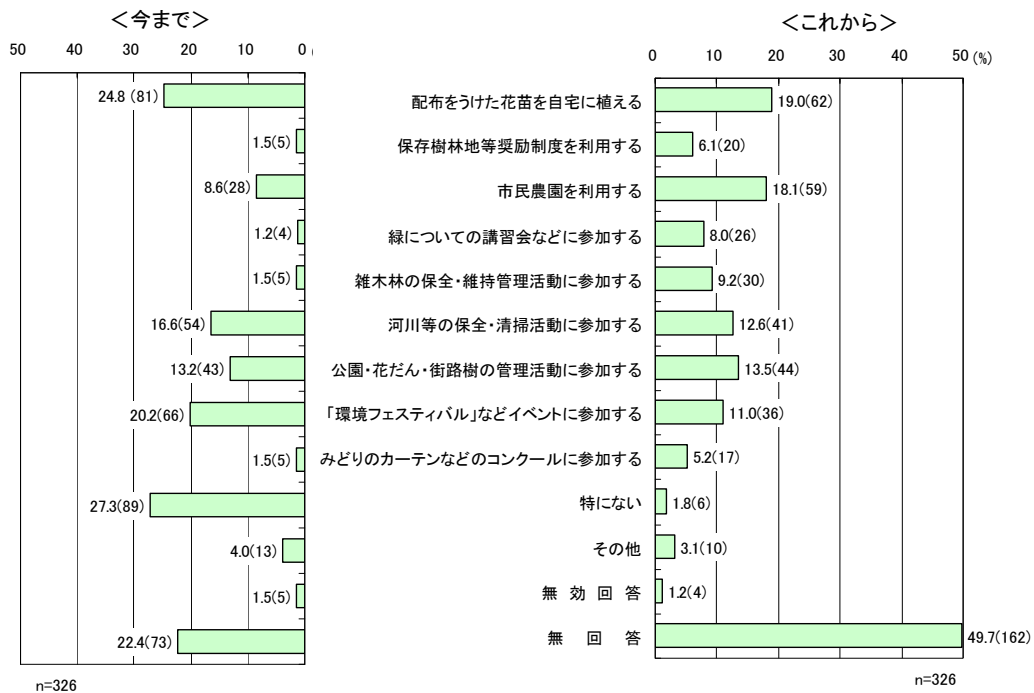
- 2 「守りたい緑と水」には、福生市の特徴的な緑と水があげられている一方で、「増やしたい緑と水」には、道路沿いやまちなかなど、市街地の緑があげられました。

問 あなたが「守りたい緑と水」・「増やしたい緑と水」の環境はどのようなものですか？ [3つ選択]



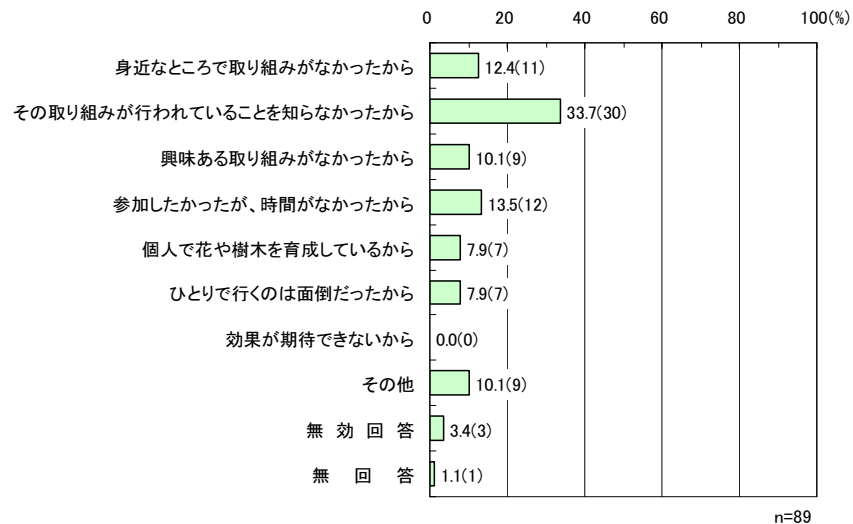
- 3 緑と水の取組みについては、これから参加してみたいと考えている人が多くいることが分かりました。特に、自宅への花苗の植栽や、市民農園の利用についての、ニーズが高いことが分かりました。

問 あなたは、福生市内の緑と水の取組みに今まで参加したことがありますか？  
また、これから参加してみたいものはありますか？〔選択数の制限なし〕



- 4 今まで参加したことがない人の中には、取組みが行われていることが知らなかったために、緑と水の取組みに参加できていない人が多くいることが分かりました。

問 今まで参加したことが「特にない」と回答した人への質問です。  
参加したことがない理由はなんですか？



## (2) 関係団体意見交換会での市民の声

福生市内では、福生市の特徴的な緑と水の多くは、市内の市民活動によって維持され、また改善されてきました。

市民が主体となった活動によって、市街地の道路に花の彩りが加えられ、まちなかに残る樹林地の再生が図られています。小学校では野鳥の観察が行われ、市内の活動団体も一緒になって、自然を愛でる教育が市内に広がっています。玉川上水、熊川分水などの市内に残る貴重な水の空間は、その重要性が、若い世代へと伝えられており、多摩川では、自然体験のイベントなど、緑と水に親しむための活動がたびたび行われています。

市内の緑と水をこれからも守っていくためには、市民活動がますます盛んになり、多くの市民が、活動へと参加するようになることが欠かせません。緑と水に関する取組みを続けている団体から、市民活動を進めていく上での課題や、進めていくための取組みについて、うかがいました。

### 【市民活動を進めていく上での課題についての主な意見】

- ◆ 緑と水に対して、福生市民の関心や意識が低い
- ◆ 市民活動に対して、福生市民の関心や意識が低い
- ◆ 貴重な緑や水の土地の所有者が、緑と水に対して関心や意識が低い
- ◆ 活動に参加している人の高齢化などによって、活動人数が減少している
- ◆ 市民団体や活動の情報が、市民に伝わっていない

### 【市民活動を進めていくための取組みについての主な意見】

- ◆ 活動のPRのために公報や看板設置など、より一層の情報発信が必要である
- ◆ 市民団体同士が連携しながら取り組んでいくことが必要である
- ◆ 市民や行政職員が活動に参加しやすい環境を整えていくことが必要である
- ◆ 利用されていない空間を、市民団体の活動場所として活用するなど、市民活動が停滞しないよう、活性化の工夫をしていく必要がある

### 【意見交換会への参加団体】

- ◆ ふっさ花とみどりの会 ◆ 福生水辺の楽校運営協議会
- ◆ 福生萌芽会 ◆ 玉川上水遊歩道を考える会 ◆ 熊川分水に親しむ会
- ◆ NPO 法人 自然環境アカデミー ◆ 福生市立福生第五小学校